

## フタスジヒメハムシ

### 1 発生生態

#### (1)見分け方

成虫は体長3～4mm。体色は黄茶色で上翅に一对の黒条がある（写真1）。

#### (2)発生のようす

成虫は畑や畦畔の落葉下や草間に潜んで越冬する。越冬後は5～6月頃から活動を始め、ダイズの株元の茎の割れ目や葉裏、葉柄、茎などに産卵する。幼虫は土中に潜り、根の根粒を食害する。第1世代成虫は7月頃、第2世代は8月下旬から9月にかけて発生し、個体数は第2世代が多い。

成虫は葉や未熟莢を食害し、莢の表面が食害されると加害部が変色し、子実に黒斑が生じ、腐敗粒となることもある（写真2）。

本県では、2012年頃までは会津で発生が多かったが、近年は浜通りで発生が目立っている。

### 2 防除方法

薬剤防除には、播種前の塗抹処理、播種時の播溝散布および成虫を対象とした子実肥大期の散布がある。



写真1 フタスジヒメハムシ成虫

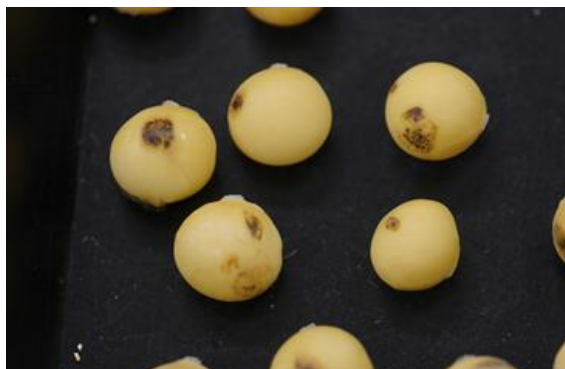


写真2 フタスジヒメハムシによる汚斑